

議会報告「市民との意見交換会」記録 (平成 27 年 2 月 19 日 (木) 善防公民館)

1 部 議会報告

市民：請願第 3 号の国旗掲揚について、今回の請願は採択されたが 2 年前は不採択、陳情第 1 号の反対理由として議長室や委員会室にまで揚げる必要はないとの報告であるが、信念がある判断とは考えられない。

班長：市議会としての議論の結果として掲揚していなかったが、改めての請願提出を受けての議論の中で、他の市議会の状況や市民の多数の意思を反映して賛成意見が多数となり採択された。

市民：他の市議会を都合の良い時だけ活用せず、議会基本条例の先進市議会としては恥ずかしいのではないか。基本条例の「裏」があってはならない。

班長：議会基本条例の「裏」があるとは思っていない。条例の規定から遅れている現状もあるが、議会の透明性を高めるための取り組みは行っている。

市民：議会基本条例は市民と議会と行政の関係を明記しているが、議会改革が一番の問題点。人口増対策が盛り込まれていない点は残念であり、それにどう対応するのか、意気込みも理解できない。

班長：基本条例は施策を網羅するものではない。政策提言条項等もあるが、それ自体は実現できていない。しかし、取り組みは重要であり、今回の意見交換会もその取り組みの一環である。

2 部 意見交換（人口増施策について）

市民：司会者の追加の説明は危機感のみを煽っているのか、その数字の意味合いは何か、説明の主旨は何か、確認したい。

司会：隣市は人口増を視野に入れた産業団地の整備等を展開して、今その成果が出ているが、加西市の人口減少は特異であり、その要因を一緒に考えたい。

市民：5 万人都市再生を言う市長に対抗しない議会が理解できない。発言しない議会、委員会が問題。検証するのも遅い。鶉野のトマト団地の詳細は把握できているのか、細部の説明やその効果の説明がない。今後どのような産業団地が必要か等、どう説明するのか。

班長：市長に任期 4 年だから検証するものではなく、議会では市長に対して質問し答弁を確認している。ふるさと創造会議の必要性と重要性、人口増や少子化の対策、格差拡大の問題、学校給食の実施等、一定前進している西村市政であると受け止めている。しかし課題は多く、考えるべき内容は多々ある。産業団地の就労状況は分析するが市内定住者は少ないのが現状。配布資料の転入と転出の数字も含めて分析し。定住者増に向けて有効な施策が必要であり、市だけでなく国県との連動した対策が重要な時期

である。トマト団地は70～80のパート雇用が見込まれ、市内のトマト業者には影響がないと聞いている。農業振興も関係機関との連携を図って取り組まなければならない重要課題である。

市民：費用対効果の視点も理解するが、北条鉄道の各駅周辺も活性化させる開発が必要ではないか。第二の都心となる開発が重要と思う。国家百年の計ではないが、駅前開発は絶対に必要ではないか。

班長：公共交通の審議会の報告、コミバスの新路線の説明。ポイントを定めた開発や整備の方法も必要であるが、法的な規制の解除等も粘り強くやらなければならない。

議員：昔、法華口駅前には銀行があった。北条鉄道は観光資源としても貴重なもの。提案には賛成したい。

市民：北条鉄道の利用者は多数であるが、より利用者を増やすことが人口増に繋がる。市役所のミスは最大の危機、市民が行政に無関心であってはならない。議会の関与が重要で放置すれば市民のミスになる。住民が不安を感じない環境整備が必要で、不安の払拭がなければ「ふるさと創造会議」は成功しない。

班長：行政ミスの根絶に向けて対策が取られている。調査等による改善方法も含めて提言していく。

市民：婚活を実現させる「仲人」を募り、難しいとは思いますが成功報酬を市が支払う制度を創出してはどうか。即効性が期待できる。マスコミ受けをねらうのではなく、昔ながらの仲人をお願いできれば男女の出会いも期待でき、報酬はお礼金として効果も見えらると思う。

班長：一昨年からの婚活の取り組みを紹介。施策として一定の評価があるが成果は確認できない。

司会：これまでも区長さんや民生委員さんにも仲人的役割をお願いしたいこともあったが、市民運動として広げることは重要である。

市民：ベルデしもさとの開発は加西市の将来を決める取り組みと考えているが、議員の皆さんの意見ではなく、賛成反対を含めた地元住民のご意見をお聞きたい。

市民：ベルデしもさとの分譲地開発は大賛成であり、人口増対策には効果が大きい。加西市には住む土地、家を建てる土地が開発できなかったが、多数の住宅地が確保できる。定住者にならなければ子育て支援も受けられなかった。さきほどの北条鉄道の各駅周辺の開発は今後も継続して取り組む必要があり、重要開発である。

市民：配布資料には反映されていないが、離婚率も非常に高い。女性が子育てをする大変さ、調整区域の縛りで住む土地も確保できない現実。婚活の取り組みも重要であるが、離婚家庭に対する視点、支援にも注視すべきである。

市民：男女の出会い創出は、県や県民局にも制度があるが、加西市では実現されていない。ベルデしもさとの分譲条件は問題ないのか。

市民：下里小学校の今年の新入生の人数、20人と聞いて驚き危機感を感じている。老人会は別として、婦人会や消防団の組織が維持できない現状、最近、出生率がアップして

いると聞くがどうか。

班長：配布資料を説明。人口増対策の有効策はないものの、それなりの効果も出て来ていると思うし、地道な取り組みが重要。消防団や婦人会組織の維持は大変なものがあると承知しながら、地元頑張ってもらいたい。離婚家庭や母子家庭に対する手立ても必要との指摘は理解した。ベルデしもさと、特別指定区域、宇仁校区の取り組み等、それなりの成果が出ていると思う。ベルデの成功が次の開発に繋がることは間違いなく、重要な取り組みとなっており、条件等も担当者で練られたものです。

司会：出生率の上昇は、計算式の分母となる母親の数が減っているため、決して喜べる状況ではない。

市民：人口減少社会は突然にできたものではなく、40年以上前から叫ばれていたもので、西村市長になってから、行政の危機感をもって対策を講じるようになった。人口減少、5万人都市再生として話題に上げて議論をすることは重要なことだと思う。議員の皆さんには勇気をもって対応することを期待したい。様々な意見をまともに受けて議論を願いたい。「ふるさと創造会議」も当初の心配を他所に、6校区で取り組まれていると聞いて、ようやくまとまりが出て来たと感じている。国の地方創成の後押しも期待出来る時期となり、加西市の取り組みも成果が期待できる。参加人数は少なくとも、勇気をもって行動することを議員に期待する。

班長：それぞれの地域が、その気になって取り組むことが大きな成果に繋がることを共通の理解としたい。